

2023

2.1 (水)

12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_iwruwxwRURYeF0UM_v4Hifw

【技術支援】九州大学 Q-AOS & TEMDEC

研究成果の事業化にむけた OIP の取組みの紹介

司会：Scott Valentine 教授 (Q-AOS 研究推進ディレクター)



Key Words

産学連携

技術移転

知的財産

大西 晋嗣 副理事

学術研究・産学官連携本部

2003 年 京都大学大学院農学研究科を修了後、(株)クボタにて先行技術開発に従事していました。2007 年より関西 TLO (株)に入社して技術移転の仕事を始め、2013 年より同社代表取締役社長 (~2018 年 6 月) を務めました。2017 年より京都大学産官学連携本部を兼務して、2018 年 6 月に京大オリジナル(株)の設立および同社取締役 (~2020 年 3 月) を務めました。2020 年 4 月より九州大学学術研究・産学官連携本部 (現オープンイノベーションプラットフォーム) 教授に着任して、本学の産学連携支援業務に従事しています。2020 年 10 月より九州大学副理事 (産学官民連携・知的財産担当) を拝命しています。その他、大学技術移転協議会 代表理事、RTTP (国際認定技術移転プロフェッショナル)

大学の研究成果の事業化に向けた取組みが日本でも始まって 20 年以上が経過しました。いまやイノベーションの源泉であり、エコシステムの中心として大学は期待されています。本セミナーでは、本学の産学連携組織であるオープンイノベーションプラットフォームの組織のことや研究成果の事業化に向けた取組みなどを紹介します。

2023

2.8 (水)

12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_bolFYuuReWCd8mHRXpE8Q

【技術支援】九州大学 Q-AOS & TEMDEC

グリーンウォッシュとコンピテンズ・グリーンウォッシュが 持続可能な金融と ESG 投資に与える影響

司会：錢 琨 准教授 (Q-AOS 創発推進コーディネーター)

4 質の高い教育を
みんなに8 働きがいも
経済成長も13 気候変動に
具体的な対策を16 平和と公正を
すべての人に17 パートナシップで
目標を達成しよう

Key Words

ESG

サステナブルファイナンス

グリーンウォッシュ

コンピテンズ・グリーンウォッシュ

教育

サステナビリティ

キム シューマツハ 准教授

九州大学 アジア・オセアニア研究教育機構

キム・シューマツハ准教授はルクセンブルク出身で、2022年8月に九州大学に准教授として着任する以前は、東京工業大学の講師および研究員（サステナブル金融・ESG（環境 [E: Environment]、社会 [S: Social]、ガバナンス [G: Governance]）担当）を務めていました。また、オックスフォード大学の研究員でもありました。

過去には、ルクセンブルグ環境・気候・持続可能な開発省へのコンサルティング活動や、オックスフォード大学で持続可能な金融の博士研究員として従事しました。また、ルクセンブルク大学や東京の国連大学で非常勤講師を務めた経験もあります。

アウトリーチ活動や学会会員として、GRI Global Sustainability Standards Board (GSSB) のメンバーです。また、公認環境保護士 (CEnv) でもあり、国際標準化機構 (ISO) の持続可能な金融に関する技術委員会 (TC 322) と環境マネジメントに関する技術委員会 (TC 207) の委員を務めています。さらに、気候変動開示基準委員会 (CDSB)、気候変動債権イニシアティブ (CBI)、グリーンファイナンスネットワークジャパン (GFNI) の技術作業部会にも所属しています。

研究テーマは、ESG データおよびインパクト指標、持続可能な金融フレームワーク、グリーンボンド、自然資本、生物多様性および生態系サービス、再生可能エネルギープロジェクト開発、気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) / 自然関連財務情報開示タスクフォース (TNFD) などです。

サステナブルファイナンス、ESG 投資、サステナビリティレポートの台頭により、企業のサステナビリティパフォーマンスの主張と、適切な ESG インテグレーションやサステナビリティインパクト、例えば温室効果ガス排出量の測定、報告及び検証）を確保するための組織のリソースやキャパシティの間に徐々に乖離が生じてきています。

グリーンウォッシングとは、「グリーン」、「サステナブル」、「カーボンニュートラル」、「ネットゼロ」、「ネイチャーポジティブ」などといわれている商品やサービスが、実際には、環境、気候、持続可能性に関する基本的な検証可能性や信頼性の基準を満たしていないことを言います。

コンピテンズ・グリーンウォッシュは、ESG の専門的なスキルに関連するもので、教育や専門的な実績がなく、環境に関する能力や非財務的な持続可能性に関する専門知識を過大に主張するものです。

しかし、グリーンウォッシングとその亜種である「コンピテンズ・グリーンウォッシング」は、文脈的に孤立して起こるのではなく、サステナブル金融、ESG 投資、そしてそれらが支える力強いグリーン成長に強く結びついているのです。そこで、本発表では、サステナブルファイナンスと ESG の分野におけるグリーンウォッシュのリスクと、専門分野に関連するコンピテンズ・グリーンウォッシュについて検討します。

2023

2.15 (水) 12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_wzOYQ2RfQeyE--vr76KkZw

【技術支援】九州大学 Q-AOS & TEMDEC

「空飛ぶクルマ」は社会に受け入れられる 移動手段になれるのか？

司会：田中 俊徳 准教授 (Q-AOS 研究推進コーディネーター)

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに9 産業と技術革新の
基盤をつくろう10 人や国の不平等
をなくそう11 住み続けられる
まちづくりを12 つくる責任
つかう責任13 気候変動に
具体的な対策を17 パートナリシップで
目標を達成しよう

Key Words

空飛ぶクルマ

社会実装

社会受容性

ウェルビーイング

小島 立 教授

九州大学大学院法学研究院 国際関係法学部門



学歴

2000年3月：東京大学法学部第1類卒業

2003年6月：ハーバード・ロースクール法学修士課程 (LL.M) 修了

略歴

2000年4月-2005年2月：東京大学大学院法学政治学研究所助手

2002年7月-2004年7月：財団法人知的財産研究所長期在外研究員

2002年7月-2004年7月：ハーバード・ロースクール東アジア法研究プログラム客員研究員

2005年3月-2007年3月：九州大学大学院法学研究院助教授

2007年2月-2007年3月：シンガポール国立大学法学部アジア法研究所客員研究員

2007年4月-2020年3月：九州大学大学院法学研究院准教授

2013年4月-2013年12月：マックス・プランク知的財産法・競争法研究所客員研究員

2014年1月-2015年3月：マックス・プランク・イノベーション・競争研究所客員研究員

2020年4月-現在：九州大学大学院法学研究院教授

2020年4月-2022年9月：九州大学大学院法学部国際コース (法律) ディレクター

2020年11月-2022年9月：九州大学総長補佐

2022年3月-現在：九州大学高等研究院副研究院長

2022年10月-現在：九州大学副理事 (担当：法務、知的財産、研究インテグリティ)

2022年10月-現在：九州大学法務統括室長

私の専門は、知的財産法、文化政策、科学技術イノベーション政策です。私たちが多様性と包摂性を兼ね備えた形で科学技術イノベーションの成果や文化的表現を享受するための制度設計について教育研究を行っています。私が旧産炭地である福岡県直方市の出身であることもあり、ライフワークの一つとして、筑豊地方の石炭産業遺産に関する研究も進めています。

「空飛ぶクルマ」の社会実装に向けた動きが国内外で加速しています。日本では、2025年の大阪・関西万博において、「空飛ぶクルマ」の実用化が目指されています。しかしながら、「空飛ぶクルマ」がより高頻度かつ高密度で運行される状況を見据えた社会制度の設計や「社会受容性」についての根本的な検討はなされていないのが現状です。「空飛ぶクルマ」が私たちの「ウェルビーイング (幸福)」に資する移動手段になるためには、環境負荷を抑えること、いわゆる「スマートモビリティ」としてのサービスを実現すること、スムーズな運航を行うためのインフラ整備などの多くの複雑な課題を解決することが求められています。

2023

2.22 (水) 12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_Orjd110IRwy6nbOD09NSTg

【技術支援】九州大学 Q-AOS & TEMDEC

「愛してる」vs「大好き」 - 教科書に出てこない言語の習得 -

司会：横田 文彦 准教授 (Q-AOS 研究推進コーディネーター)



Key Words

言語文化

異文化コミュニケーション

暗黙知

李 曉燕 准教授

九州大学 共創学部 地球社会統合科学府 社会的多様性共存コース



中国生まれ。2011年に北陸先端科学技術大学院大学 (JAIST) 知識科学研究科博士後期課程を修了し、知識科学博士号を取得しました。中国大連外国語大学助教・講師 (2002-2009)、北陸大学兼任講師 (2008-2011)、文科省博士研究員 (2011-2012)、九州大学大学院比較社会文化研究院助教 (2013-2018) を経て、2018年5月から現職に着任しました。主な研究テーマは異文化コミュニケーション、言語文化の暗黙的知識の習得、学際教育研究など。2016年8月に公益財団法人博報児童教育振興会から第10回児童教育実践についての研究助成 優秀賞を授与されました。著書は、『「多文化グループワーク」による言語と文化の創造学習—知識科学の視点から見るアクティブ・ラーニング—』(単著) (ココ出版, 2017年12月)、『学校プリントから考える 外国人保護者とのコミュニケーション』(編著) (くろしお出版, 2023年3月刊行予定) などのほか、ジャーナル論文を多数発表しています。現在の研究プロジェクトでは、広島大学国際共創学科、山口大学国際総合科学部の共同研究者と連携して、この2つの学部と共創学部における学際教育の現状を明らかにする研究を進めています。

日本語・英語・中国語の例を挙げて対照しながら、外国語を学習する時によくぶつかる問題について説明します。特に、言語と文化の関係、および文化の差異によるコミュニケーション / 言語習得の困難などについて、議論を交えて話を進めます。